

シストセンチュウ駆除緑肥

ロケットリーフ

ロケットリーフ — ソラヌム・シシンブリフォリアム (*Sol. sisymbriifolium*) は、ジャガイモシストセンチュウ (*Globodera pallida* および *G. rostochiensis*) に対するトラップ・クロープとして使用するためにオランダで開発されました。

現在利用可能な品種は、すでにその効果が十分に証明されています (試験は 1995 年～2003 年に実施、日本では 2006 年に後志地区で確認)。ソラヌム・シシンブリフォリアムは、正式なセンチュウ防除作物としてオランダの品種リストに登録されています。この品種は完全にジャガイモシストセンチュウに抵抗性であり、ジャガイモシストセンチュウによる汚染を軽減し (60%～90%)、緑肥としての効果も非常に高いものです。

7 月の末には作物の草丈が 20～25 cm になり、それからの成長は非常に速く、最終的な草丈は約 100～125 cm に達します。全乾物収量は 1 ヘクタール当たり 10 トンにも達します。



技術的なアドバイス

畑の耕作作業

播種の数週間前に実施します。播種床がしっかりしていることを確認してください。不揃いな発芽を避けるためには、種子と土壌をよく接触させるために、よくしまった播種床を準備することが重要です。播種後に軽く土壌を押さえてください。

播種

最適な播種は5月の第2週以降です。土壌温度は最低で10°C、播種の深さは約1 cmです。条播の場合は、畦巾は10~15 cm程度とします。

播種率

通常の播種率は3 kg/haです。播種はドリルかばら撒きにします。最初の芽は、播種後10~20日後に確認できます。密度は1平方メートル当たり20~30株が最適です。

肥料

1ヘクタール当たり約100 kgの窒素が必要です。発芽後に緩効性の窒素肥料を50 kg、さらに7月の末に即効性の窒素肥料を50 kg施用します。初期成育が遅いので、最初の肥料に即効性のものを選ぶと無駄が多くなります。

雑草管理

植物の出芽後の初期成育はかなり緩やかです。除草剤、例えばラウンドアップによる出芽前処理は重要です。出芽後は、低濃度のTitus(10~25 g/ha)またはMCPA(0.3 l/ha)で処理が可能です。

病害虫

この植物にはこれまで病害は発生していません。ソラヌム・シシブリフォリアムはバクテリア萎凋病(青枯れ病; *Ralstonia Sol.* または *Pseudomonas Sol.*) に対しては感受性であるため、感染圃場での栽培は避けてください。ソラヌム・シシブリフォリアムはネコブセンチュウ、ユミハリセンチュウ、ネグサレセンチュウに対しては高い抵抗性を有しています。

刈り込み

開花後、果実が過度に形成されて気になる場合、一度25 cm程度刈り込むことをおすすめします。

鋤き込み

秋又は春に鋤き込みます。春に鋤き込むと、土壌流亡が抑制されます。秋に鋤き込むと、分解が進みます。次年度の作業を考えて鋤き込む時期を選定してください。

ロケットリーフのご用命は下記まで



株式会社 TOMTEN (トムテン)

〒080-0801 帯広市東1条南7丁目2番地1

TEL&FAX : 0155-67-5991 E-mail : tomten_ltd@kvp.biglobe.ne.jp